



映像



公共交通の実証実験の状況は

今年度えこたんバス再編を議論



黒木 一 議員
はじめ

問 JR3駅の無人化、民間バスが廃止となり、高齢者等是不便を感じ、一日も早い整備が待たれる。

答 現在、公共交通の実証実験の状況は、

問 企画部長▼令和5年度には、幸田町

地域交通計画を策定し、今年度はえこたんバスの再編を議論する。



えこたんバス安全ミーティング中

問 社会実験から正規に運行できない理由、条件は。

答 交通体系を変えることの周知が必要、

準備等が整った段階で、実証実験から正式な公共交通としたい。

問 町民に平等感を与える運行を。

答 現在、豊坂・深溝学区で運行してい

る「チョイソコこうた」を、将来的には全町で運行していきたい。また、平等という点を踏まえて、利用者負担の在り方についても研究したい。

問 実証実験を終えて決定的なシステムにするには。

答 今後の公共交通をどうしていくのか、現在実証実験を行いなから、えこたんバスも並行して走らせている。

問 幸田町民が元気に息づく町づくりをするための考えは。

答 高齢者や交通弱者に、なるべく足を確保して外に出ていただけるような形にしていきたい。

駅周辺の整備とJRとの関係は

今後もJRと協議を続けていく

幸田町が発展するには、表玄関である幸田駅周辺の整備が必要だと思われる。

問 幸田駅待合室を利用して幸田の観光を楽しんでもらうには。

答 JRと今後どのような形で出来るか協議をしていく。

問 観光面で幸田町のPRをどのように



幸田町PRアニメキャラクター

考えているのか。

答 環境経済部長▼本年は、合併70周年

記念で、幸田町編のアニメキャラクターを用い、本町の魅力発信を行う予定で検討。

問 幸田駅前の火災後、空き地を町として考える施策はあるか。

答 建設部長▼今後このエリアを一体的に開発することはない。道路系の事業は、幸田駅前から蒲郡の方へ向かって行く県道、南北に伸びる幸田駅前通りの県道は順次整備していく。



整備が進む幸田駅前



たきょうつよし
田境毅 議員

インスタントハウス備蓄の考え



映像



能登半島地震の事例を基に研究

能登半島地震での教訓が本町施策へ生かされることが望まれる。

問 ファーストミッシヨンボックスを緊急時に使いこなすには、定期的な訓練が必要。

答 総務部長▼初年度は、地域と共に年

4回の検討会を予定し、手順書を作成する。

運用上の課題、改善点などがあれば進化させる必要がある、次年度以降も継続的に訓練を実施する。

問 南海トラフ地震の想定は、正しい情報を共有する必要がある。避難所収容可能数を超える場合の対応は、

答 避難所収容可能人数6123人、数字上は収容可能だが、想定外に備え、町内企業の施設を借りるなどの協定を結んでいる。



被災地屋外で有効に活用されたインスタントハウス（輪島市）



段ボール製インスタントハウスを公民館に設置する様子（輪島市）

障がいや個別の事情で避難所に受入れ困難となる人など、避難所開設から閉じるまでの想定は。

問 障がいのある人等、避難所で分散できるスペースの確保を行う。福祉避難所訓練では、障がい者全員を収容できない等の課題も出た。

答 障がいのある人等は、避難所で分散できるスペースの確保を行う。福祉避難所訓練では、障がい者全員を収容できない等の課題も出た。

問 様々な活用が可能

な、インスタント

答 ハウス備蓄の考えは、

メリットは多く、感染症の対応としても有効と考えている

が、専門業者による施工が課題。能登半島地震の事例を研究したい。

子ども食堂の公平感ある支援

新たな補助基準を考へ団体支援

子育て支援、子ども支援が望まれている。

問 一般不妊治療当事者に寄り添い、最適な施策の検討を。

答 健康保健担当参事▼支援継続が必要であり研究を継続する。

問 ヤングケアラーの適切な支援につながる取り組みの状況は。

答 健康福祉部長▼個々に対応し、家族を含めたケアラーの負担軽減につなげている。

問 子ども食堂の運営を調査し、公平感ある支援が必要では。

答 4カ所の子ども食堂の活動状況等から、規模に合った新たな補助基準を考へ、さらに子ども食堂が広がるような運営団体の支援を考へたい。